

5 デザインガイド

5-1 建物の規模

■良好な街並みの形成 (A,E,G,Kゾーン等)

街道沿いや景観の軸となる地域において、建物の最高の高さは、良好な街並みの形成のため、隣接する建物と調和のとれた高さとする。



○隣接する建物と調和のとれた建物の高さ



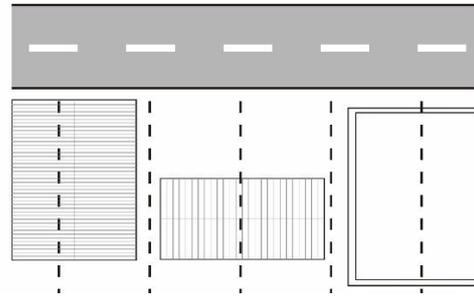
×隣接する建物と調和のとれていない建物の高さ

■短冊状の敷地割りの継承 (A,B,F,Lゾーン等)

歴史的な短冊状の敷地割りが残る地域において、統一感のある規模の建物からなる街並みの形成に配慮し、建物の規模は、短冊状の敷地割りをまたぐようなものは避け、歴史的な敷地割りを継承するよう努める。



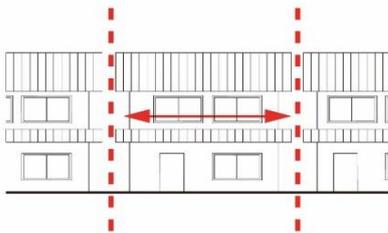
○歴史的な短冊状の敷地割りを継承した建物の規模



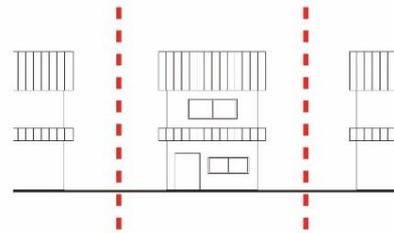
×歴史的な短冊状の敷地をまたぐ建物の規模

■敷地割りに対する間口の広さ (Aゾーン等)

歴史的な建物が残る街道沿いの地域において、壁面の連続性からなる街並みの形成に配慮し、壁面に隣接建物との隙間ができないよう、建物の間口を敷地間口に対してなるべく広くとるよう努める。



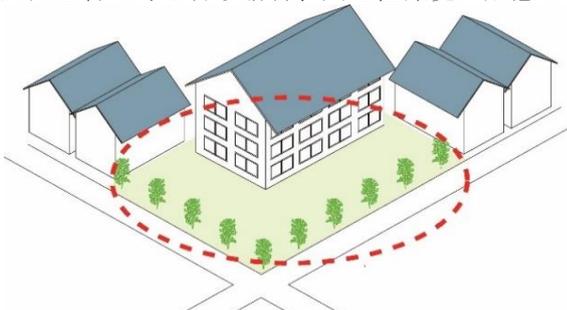
○街並みの連続性に配慮し、沿道の敷地に対して広く取られた建物の間口



×沿道の敷地に対して狭く、壁面に隣接建物との隙間ができ、街並みの連続性を欠く建物の間口

■共同建替えにおける敷地内の空地の確保 (Iゾーン等)

共同建替え等を行う場合、周辺住環境に配慮して、敷地内の外周に十分な空地を確保できる平面の規模とする。



○住環境に配慮し、敷地の外周部に空地を確保できる平面の規模

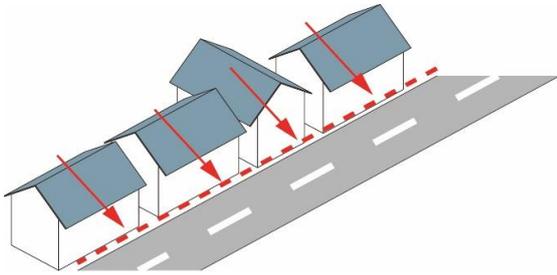


×敷地の外周部に空地を確保できない平面の規模

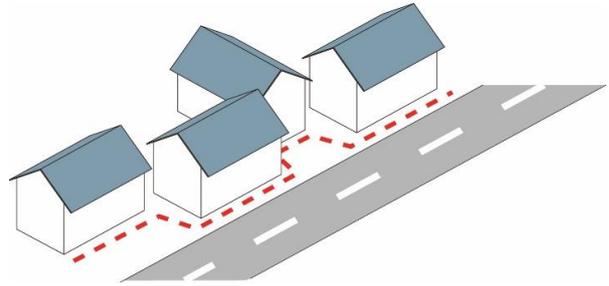
5-2 建物の位置

■壁面を揃えることによる街道の街並みの維持 (A,B,Eゾーン等)

街道沿いの地域において建物の壁面は、連続性を持った壁面からなる街並みの形成に配慮し、伝統的な町屋の壁面や前面道路に面する敷地境界線に揃える。



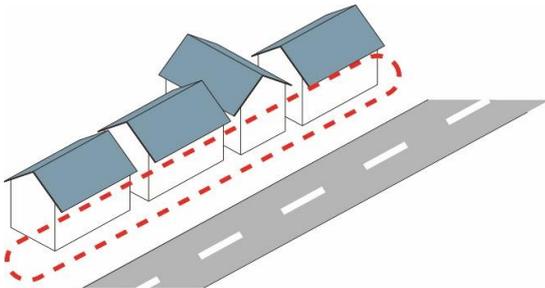
○街並みの連続性に配慮して町屋の壁面や前面道路に面した敷地境界線に揃えられた壁面線



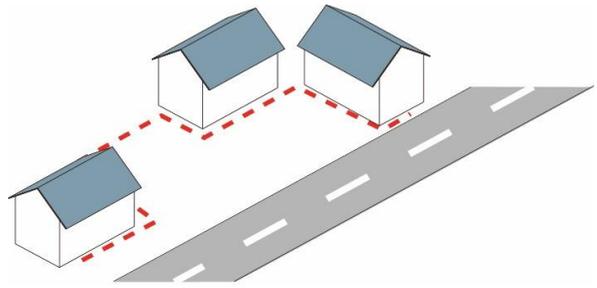
×壁面後退により壁面線が不揃いになった壁面線

■壁面調和による街並みの演出 (C,D,G,Lゾーン等)

幹線道路や街道沿いの地域において、沿道の街並みの形成に配慮し、周辺建物との壁面の調和に努める。



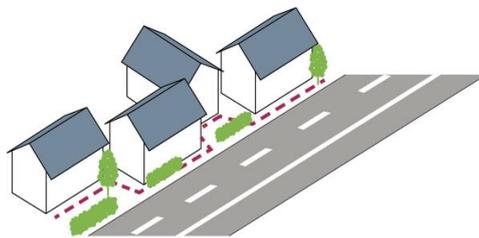
○隣接建物との壁面の調和



×壁面後退や大規模駐車場ができること等によって失われた壁面の調和

■壁面位置が複数混在する街並みの修景 (Eゾーン等)

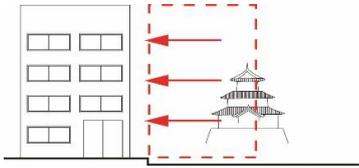
国道294号バイパス整備地域において、建物の壁面位置が複数混在する街並みの連続性に配慮し、建物の外構や道路・隣地境界に面する空間に植栽等の整備を行う。



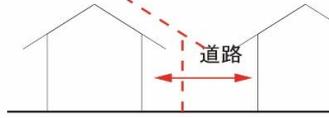
○駐車場などを設けるために建物を後退させる場合、中・低木の庭木、花木や地被類、プランター等を用いた植栽のスペースを確保できる建物の配置 (Eゾーン等)

■道路に対する建物の位置 (G,I,Jゾーン等)

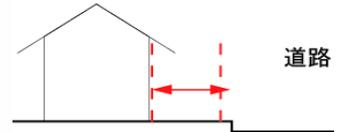
狭い道路の解消や良好な景観の維持が必要な地域においては、必要な壁面後退を行う。



○小峰城跡三重櫓への眺望を確保するために必要な壁面後退 (Gゾーン等)



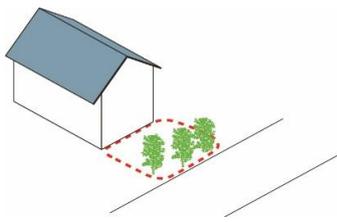
○狭い道路の解消のための壁面後退 (Iゾーン等)



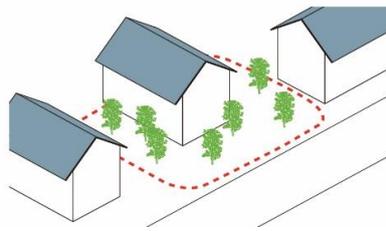
○圧迫感を与えないための道路境界から余裕を持った建物の配置 (Jゾーン)

■植栽を整備するための余裕を持った配置 (F,H,Kゾーン等)

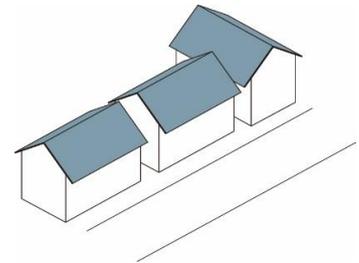
豊かな自然や、緑からなる良好な街並みが形成されている地域において、敷地内に植栽を行うために、建物は敷地に対して余裕を持って配置する。



○生垣等の整備を行うための道路境界から余裕を持った建物の配置 (F,Kゾーン等)



○敷地内に植栽の整備を行うため、敷地に対して余裕をもった建物の配置 (Hゾーン等)



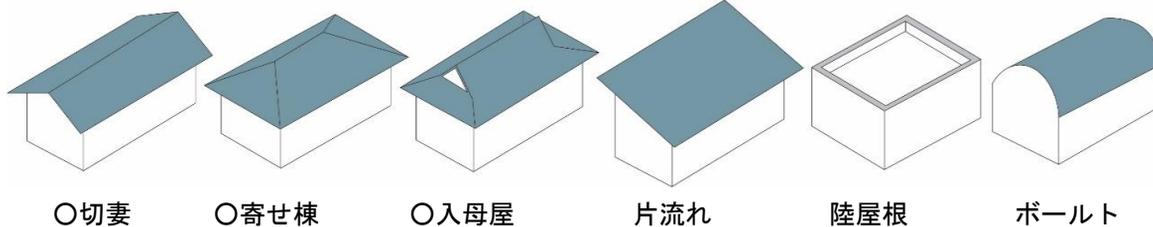
×植栽の整備を行う余裕のない建て詰まった建物の配置

5-3 屋根

屋根の形態

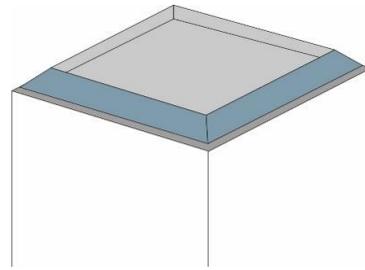
■勾配屋根（全ゾーン共通）

勾配屋根を基本とし、二方向以上に勾配しているものとする。切妻や寄せ棟・入母屋の形態を基本とし、陸屋根や片流れ屋根・ポールト屋根は避けるものとする。なお、前面道路側に軒が向く片流れ屋根に関しては、個々の敷地条件に応じて可能とする。



■一定規模以上の建築物（3階以上または延べ床面積500㎡以上）の勾配屋根（Gゾーン等）

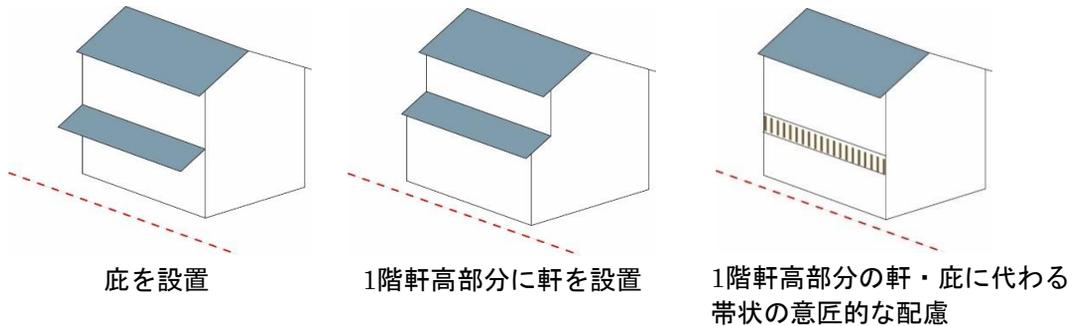
二方向以上の勾配屋根を基本とするが、一定規模以上の建築物に関してやむを得ず勾配屋根としない場合は、屋上のパラペットの形状等により勾配屋根に類似する工夫を施すなど、屋上の良好な景観に配慮されたものとする。



パラペット部分を勾配屋根に類似する形態に工夫

■軒・庇の設置（A,Eゾーン等）

街道沿いの歴史的街並みの連続性を保つために、道路境界線を越えない範囲で、周辺の建物と調和する高さに、二階部分をセットバックさせ一階部分の屋根を延長させた軒を設置する、または一階屋根部分に庇を設置することに努める。道路境界線の関係で、軒・庇の設置が行えない場合は、軒・庇設置部分に格子の帯等を設けることで周辺の建物との連続性に配慮された意匠とする。軒・庇の仕上げ材については、屋根と同質のものなどとする。



■地域固有の屋根形態（Lゾーン等）

せがい造りや蔵に使われる置屋根等、その地域固有の屋根形態や建物固有の屋根形態を有する場合は、その屋根形態を活かして修景を行うものとする。また、新築とする場合もその屋根形態に類するものとするよう努める。



せがい造り(旗宿)



置屋根

屋根の色彩・素材

■屋根素材（全ゾーン共通）

瓦屋根については日本瓦及び平板瓦や伝統的な赤瓦を原則とする。なお、日本瓦に類する軽量瓦等については、色彩に配慮した上で上手に用いることとする。



日本瓦



平板瓦



軽量瓦

銅板は素材色とし、その他の金属板やスレート板等を用いる場合は光沢のあるものは避け、濃い黒・灰色・茶系の色彩を原則とする。ただし、自然色や伝統色のもの等についてはこの限りでない。



銅板



金属板



スレート板

■使用方法に配慮すべき素材（全ゾーン共通）

光沢のある素材、透明素材、波板折板屋根、色彩が青や赤等の黒・灰・茶系以外のものは屋根の全面に用いることは避ける。ただし、これらの素材を部分的に用いる場合は、前面道路や歴史資源等からの見え方に十分配慮するものとする。



× 光沢のある素材



× 透明な素材



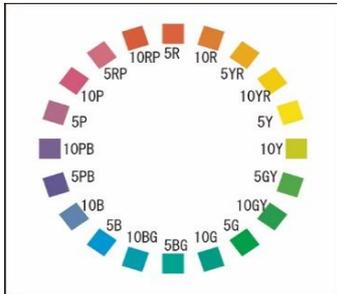
× 波形トタン

5-4 壁面意匠及び開口部①（壁面の色彩・素材）

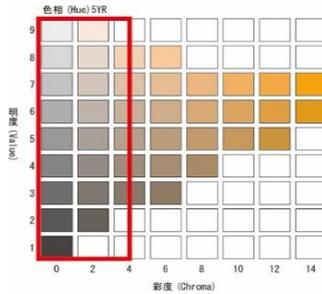
■壁面の色彩（全ゾーン共通）

マンセル表色系を基準として外壁や広告等に関して色彩のコントロールを行う。Y・YR・N系の色相で彩度は3以下を基本とする。自然素材や伝統色に関してはこの限りでない。

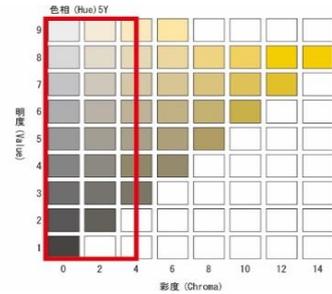
※ここに掲載しているマンセル表および色相環は印刷によるもので正確な色ではないため、実際の色は色見本等で確認を行う。



マンセル色相環



例.5YR



例.5Y

■壁面素材（全ゾーン共通）

建築物の外壁は街並み景観を構成する重要な要素である。ここでは、ゾーン別ガイドラインであげたような光沢のある素材等のように使用を避けるべき素材をあげつつ、歴史的街並みに調和する素材や推奨される素材、経年変化によって風合いを増す素材など推奨される素材を紹介する。ただし、歴史的な街並みに配慮した現代的な意匠・素材に関しては個別に判断することとする。

推奨される素材

自然素材（例）



漆喰



土壁

自然素材に準ずる素材（例）



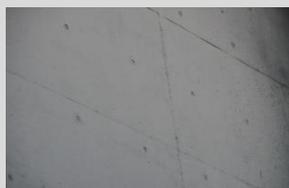
漆喰風仕上げ



砂壁風仕上げ

使用に配慮すべき素材

歴史的街並みへの調和に配慮して使用する素材（例）



打ち放しコンクリート



トタン

使用を避けるべき素材

光沢のある素材（例）



タイル



アルミパネル

《景観形成に効果ある素材選び》

自然素材や伝統的素材は古くから使われている地域固有の素材であり、地域の個性ある景観の形成に深く関わってきました。こういった素材を使用することは、周辺景観との調和を図り、地域の歴史文化を育むことにもつながります。土や木、石、レンガなど、そこにある景観がつけられた時代や場所などに合うものを選ぶことが大切です。

また、暖かみのある素材や重厚感のある素材、自然素材等を使用すると、建物の安定感や人々への安心感をもたらす効果があります。

素材の色や質感（テクスチャー）等を重視し、地域の考える将来像に合った景観形成を進めましょう。



◎マンセル表色系とは

マンセル表色系は、多くの国々で用いられ、JISにも採用される色彩を正確かつ客観的にとらえる方法であり、「色相（いろあい）」「明度（あかるさ）」「彩度（あざやかさ）」の3属性の組み合わせによって色を表現するものです。

■色相（いろあい）

色相は、10種の基本色を表すアルファベットやその度合いを示す数字を組み合わせ、5Y・10YRなどのように表します。

■明度（あかるさ）

明度は、明るさの度合いを0から10までの数値で表します。数値が大きくなると明るい色となり、数値が小さくなるほど暗い色となります。

■彩度（あざやかさ）

彩度は、鮮やかさの度合いを0から14程度までの数値で表します。数値が大きくなると鮮やかな色となり、小さくなるほど落ち着いた色となります。

■マンセル記号

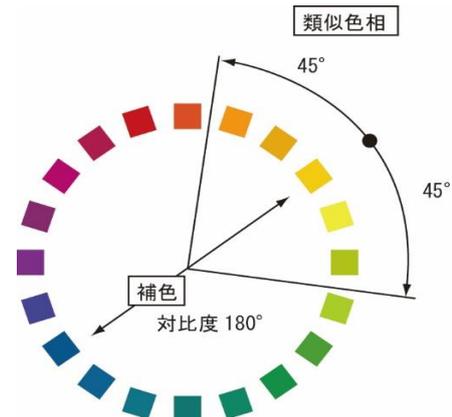
マンセル記号は、これら3つの属性を用いて「色相／明度／彩度」の順番で表記し、有彩色は「5Y 7.0／3.0」と記し、「5ワイ、7.0の3.0」と読みます。無彩色は、色相の区別が無く彩度が0と定まっており、ニュートラルの意味を表すNの文字と明度を表す数字で示します。「N 5.0」と記し、「エヌ5.0」と読みます。

■色彩調和（色の組み合わせ）（全ゾーン共通）

心地よい印象を与えるような色の組み合わせを「色彩調和」という。「調和」を言い換えれば、対象物と周辺景観の間における一定の変化または秩序といった「バランス」を保つことであり、自然の山並み等の「背景色」や隣接する建築物等の「隣接色」との色の対比関係について考えることが必要となる。

○類似色相を使う

右図のようにマンセル色相環を用いて2色間の色の距離を角度で表したものを「対比度」といい、その色を中心として左右それぞれ概ね45°内の色相を「類似色相」という。また、色相環の反対にあたる色を補色（反対色）といい、これらの2色の組み合わせは対比が強い組み合わせとなるため、人工物において意識的に使われることはあるものの、自然環境下においては望ましくない配色となる。



類似色相と補色

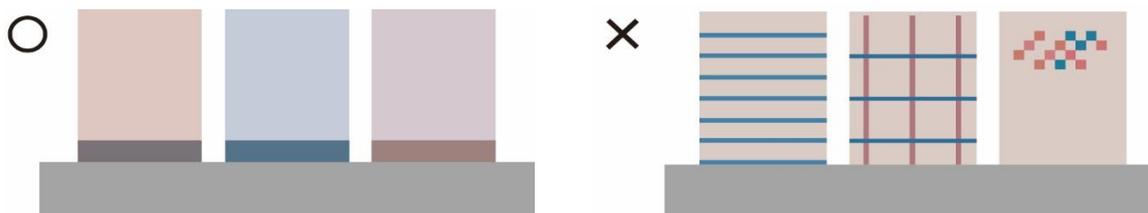
○明度差・彩度差を抑える

明度差や彩度差を抑えることでも調和を保つことができる。一般的には、明度差を1程度、彩度差を2程度に抑えることで、その2色の組み合わせは調和しているといえる。

■配色の考え方（全ゾーン共通）

周辺景観と対比する色相（強調色・アクセントカラー）を使用する場合、その分量は全体の面積の約5%程度とするのが望ましい。また、複数の色を用いる場合には、多色を避け、2～3色程度とすると、周辺との調和を図りやすくなる。その際、明度の低い色を下層に持ってくると、安定した印象を与えることができる。

周辺の景観と対比するアクセントカラーを上部に使用したり、ボーダー状・格子状・モザイク状などに配することは避ける。



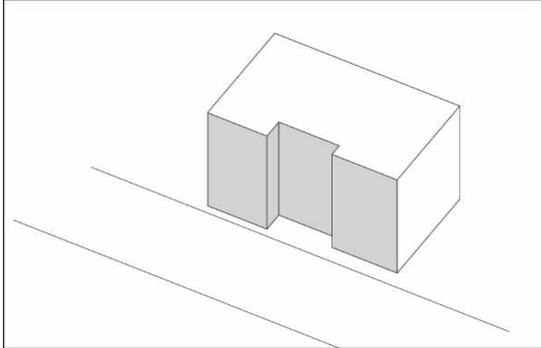
低明度色は下層に配置

避けるべきボーダー状等の配色

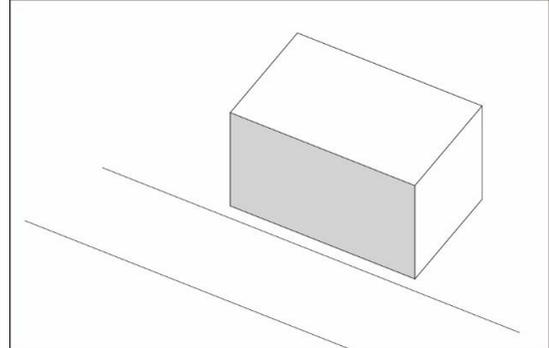
5-4 壁面意匠及び開口部② (壁面意匠・開口部のしつらえ)

■壁面の分節 (I,Jゾーン等)

長大で無窓の壁面等、単調で圧迫感のある壁面をつくらないようにし、壁面が大規模になる場合は、壁面の分節を行うなど、周囲に圧迫感を与えないように配慮する。



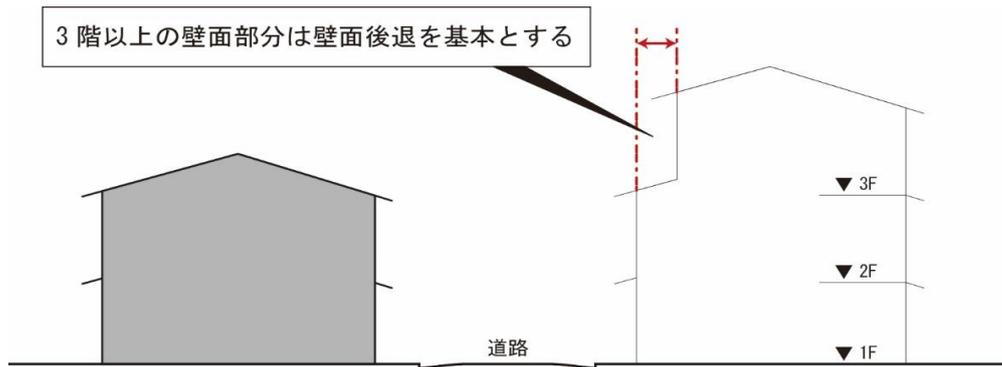
○分節化され、圧迫感を与えないよう配慮された壁面



×長大で圧迫感のある壁面

■3階以上の外壁の壁面後退 (A,Eゾーン等)

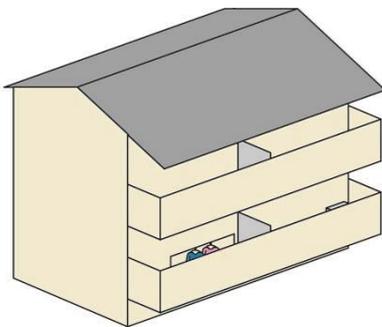
軒先が連続する歴史的な沿道景観の保全や沿道における圧迫感の軽減のため、3階以上の壁面部分については壁面後退を基本とする。



■バルコニーの設置 (全ゾーン共通)

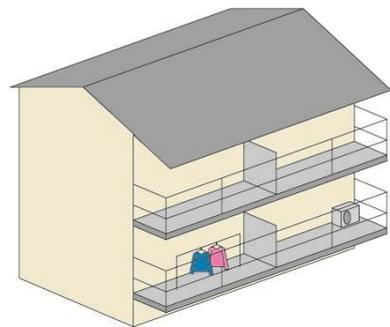
集合住宅等にバルコニーを設置する際は、建物と同一の色彩とし一体的な形態意匠とする。また、バルコニー内の建築設備や洗濯物等が道路側及び歴史的建築物等側から見えにくい構造とする。

○



景観に配慮して建物と調和した壁や柵等を利用したバルコニー

×



洗濯物や室外機等が道路側から直接見えてしまっているバルコニー

■街の賑わいを演出した意匠(E,Gゾーン等)

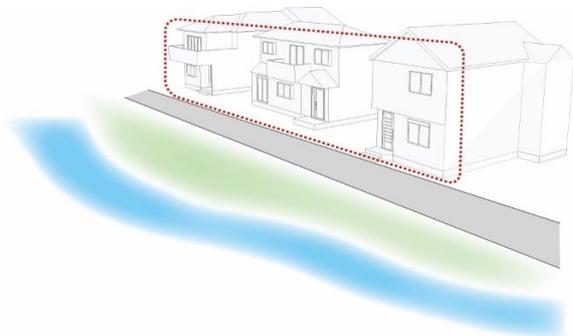
幹線道路や、祭礼行事等が行われる街道沿いの店舗等において、1階の壁面部分は歩行者に配慮し、ショーウィンドウ等を設け、賑わいを演出した意匠とする。



街の賑わいを演出するショーウィンドウ

■河川沿いの街並みの表情づくり(Kゾーン等)

河川沿いの地域において、河川側の壁面は、街並みの表情づくりに配慮し、玄関や開口部を設けるように努める。



河川側の壁面に設けられた、河川沿いの街並みの表情づくりに配慮された玄関や開口部

■木製格子戸やそれに代わる見通しのきくシャッター (A,B,C,D,E,Gゾーン等)

店舗等において、前面道路に面する開口部にシャッターを設ける場合は、閉鎖的なシャッターは避け、木製格子戸やグリルシャッター等見通しがきくものを使用する。



○木製格子戸 (A,B,Eゾーン等)



○見通しのきくシャッター



×閉鎖的なシャッター

■歴史的街並みに配慮した開口部 (A,Bゾーン等)

歴史的な街並みの残るゾーンにおいては、開口部には、木製格子や引き違い格子戸、色彩に配慮した木製格子に準ずる建具を使用し、歴史的な街並みに配慮したものとする。



○歴史的街並みに配慮した木製格子

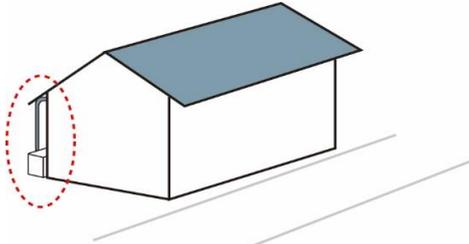


○木製格子に準ずるアルミ製建具

5-5 建築設備

■屋外建築設備 [室外機・配管・換気扇・設備メーター等] (全ゾーン共通)

室外機や配管などの屋外設備は、道路側や歴史的建物の周辺等の公共的空間から見えにくい位置に設置することを基本とする。やむを得ず見えやすい位置に設置する場合は、建築物の外観意匠と調和した目隠しや植栽などで隠す、または外壁面と調和した色彩にするなどして景観に配慮する。



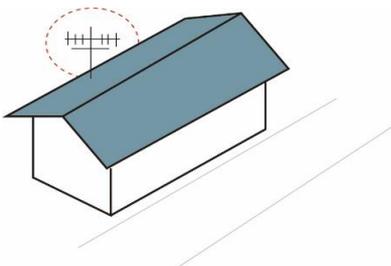
○道路から見えにくい位置に設置



○建築物の外観意匠と調和した目隠し

■アンテナ (全ゾーン共通)

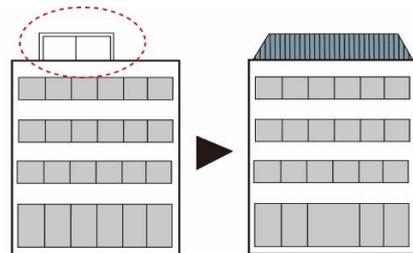
屋根にアンテナを設置する場合は、道路側から見えにくい位置に設置するよう努める。



○道路から見えにくい位置に設置

■屋上設備 [給水槽、エレベーター] (全ゾーン共通)

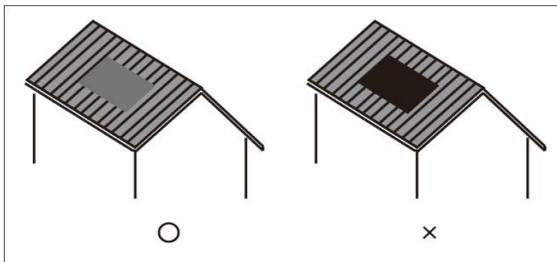
屋上に給水槽やエレベーター施設等を設置する際には、道路側や歴史的建物の周辺等の公共的空間からの見え方に十分配慮するよう努める。



○配置の場所や屋根の形状をうまく活かして見えにくくなるような配慮や工夫

■ソーラーパネル (全ゾーン共通)

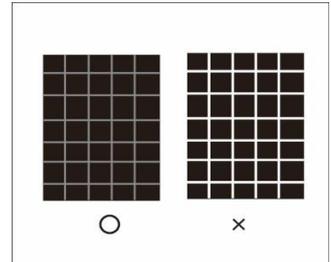
建築物の屋根にソーラーパネルを設置する場合、パネルの色は光沢のない黒・濃い灰色とする。また、セルの目地や配管が目立たないよう、壁や屋根の色彩と合わせたり、目立たない位置に設置する。



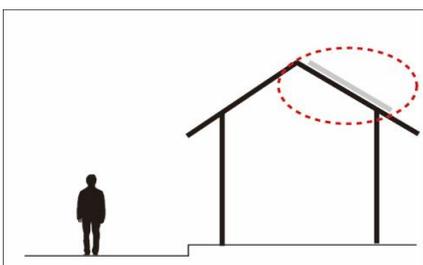
屋根の色と合わせたソーラーパネル



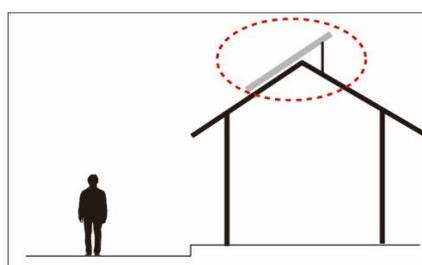
○屋根一体型のソーラーパネル



目地が目立たないソーラーパネル



○目立たない位置に設置

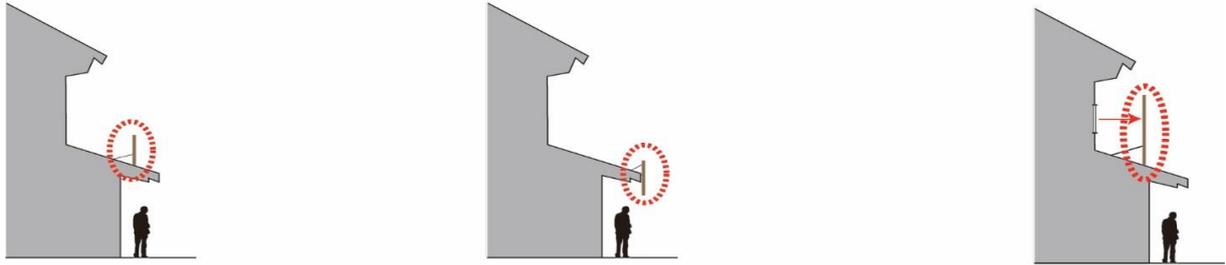


×パネルの上端部が棟を超える位置に設置

5-6 屋外広告物

■ 1階の軒・庇に設置する広告物 (A,Eゾーン等)

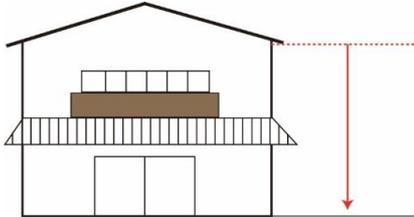
1階の軒・庇に設置する広告物は1階の軒・庇の上に設置するものとし、軒・庇を著しく覆わないようにする。



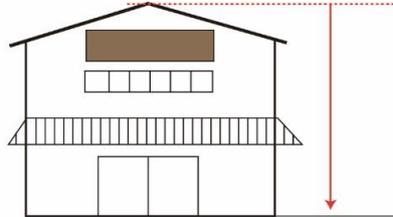
○軒・庇の上に設置された広告物 ×軒・庇を覆う位置に設置された広告物 ×開口部を覆う位置に設置された広告物

■ 建物の壁面に設置する広告

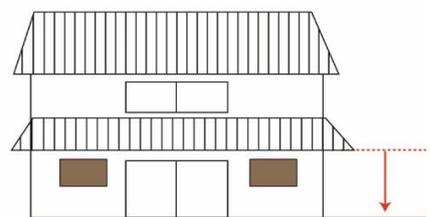
○軒高を超えないもの
(A,B,C,D,E,F,Lゾーン等)



○棟を超えないもの
(Gゾーン等)

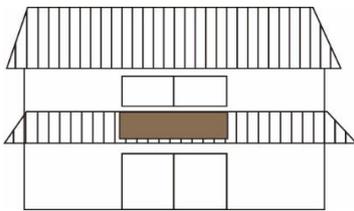


○1階軒高を超えないもの
(H,I,J,ゾーン等)

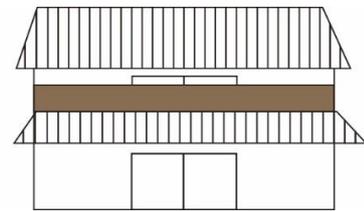


■ 屋外広告物の規模 (A,B,C,D,E,F,Lゾーン等)

広告物が前面道路側の壁面や開口部を著しく覆わないものとし、街道の景観を阻害しないよう努める。



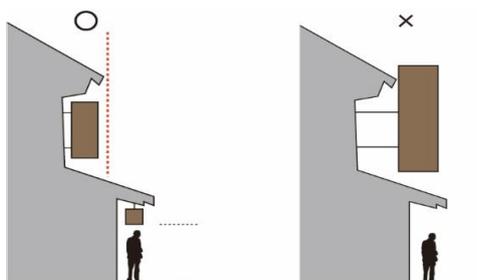
○壁面を著しく覆わない広告物の規模



×壁面を著しく覆う広告物の規模

■ 突出広告物 (A,B,C,D,E,F,Lゾーン等)

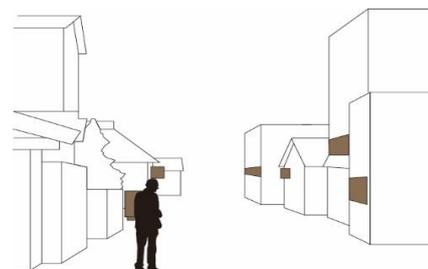
突出広告物の規模は軒先からはみ出さないものとし、小規模なものにするよう努める。



歩行者に配慮し、軒先からはみ出さない広告物

■ 周辺住環境に配慮した小規模な広告物 (H,I,J,Kゾーン等)

歩行者から見える範囲に小規模な広告物を設置し、落ち着いたものとする。

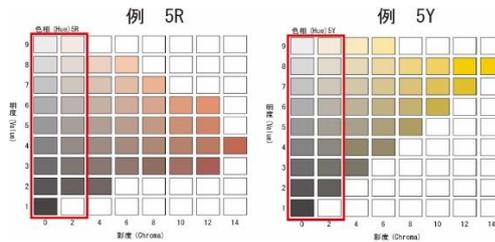


歩行者の視点から見える範囲の小規模な広告物

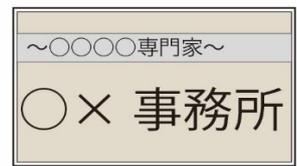
■屋外広告物の意匠

■色彩（全ゾーン共通）

下地は目立つ色を避けて、彩度の低いものとするよう努める。ただし、自然素材に関してはこの限りではない。複数の色を使う場合は2~3色程度として、色彩調和に努める。



下地の推奨例



複数の色の利用例

■文字の量・大きさ（全ゾーン共通）

文字の大きさ、フォントが不統一で配置が乱雑なものではなく、文字の大きさにメリハリをつけ、主要な部分を少ない文字数で構成するよう心掛ける。文字全体の面積比率が大きくなりすぎないように努める。



不統一で文字が大ききものは避け、最少限の情報にとどめられた広告物



文字が統一されておらず、様々な情報が表示され、落ち着きのない広告物

■素材

- ・ 自然素材を用いる場合 (A,B,C,D,E,F,H,K,Lゾーン等)

木材等の和風の素材を使用するのが望ましい。



木材等の和風の素材を用いた広告物

- ・ その他の素材を用いる場合 (全ゾーン共通)

強い光沢のあるものを避け、黒・灰色・茶等、自然素材に似た落ち着いた色にするよう努める。



光沢のない落ち着いた色彩の広告物

■照明（全ゾーン共通）

電球・ネオン管・LED等で広告物の文字や下地が直接点滅、発光するものを避け、間接的に広告物を照らすよう努める。間接光の色は白色・淡色等を用い、落ち着いた色とするよう努める。



○間接光



×点滅する広告物



×電光掲示板

5-7 植栽

■景観形成のための植栽（Hゾーン等）

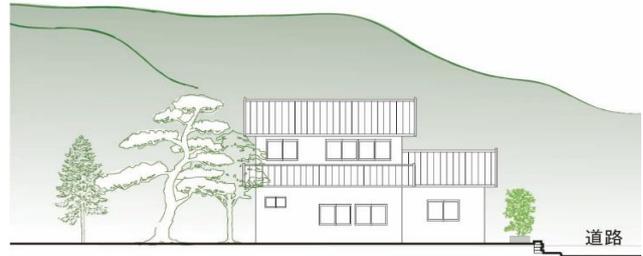
緑と住宅が調和した閑静な街並みを形成している地域において、周辺の緑と調和した風情ある景観形成に配慮し、敷地内にある既存の樹木を活かしながら、塀を越えて見えるような植栽の整備を行う。



塀を越えて見える周囲の景観形成に寄与する植栽

■周囲の自然と連続した景観を形成する植栽（F,Lゾーン等）

緑と自然が連続性を持って景観を形成している地域において、周辺の緑との調和に配慮し、敷地内にある既存の樹木を活かしながら、生垣等植栽の整備を行う。



緑と自然が調和する植栽

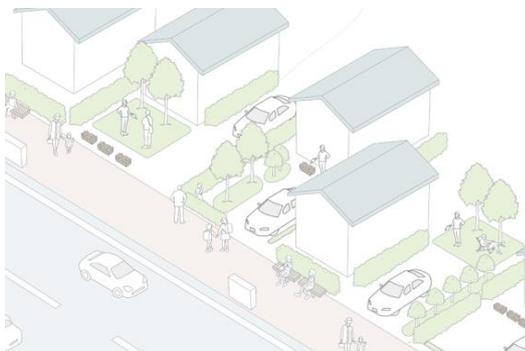
■緑の眺望景観や水景などと連続した街並みを形成する植栽（Eゾーン等）

緑の眺望景観や水景を望む幹線道路沿いの地域において、周辺の緑との連続性に配慮し、建物の外構や道路・隣地境界に面する空間に中・低木の庭木、花木や地被類、プランター等を用いた植栽を行う。

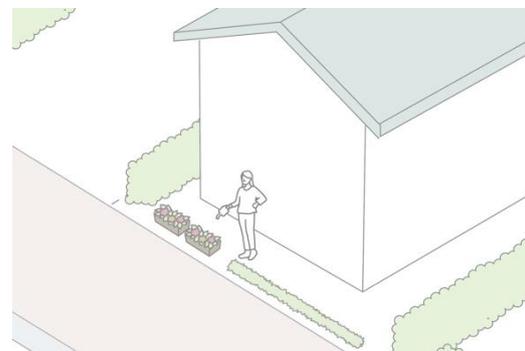
なお、道路境界部の植栽は、自動車運転者による安全確認のための見通しの確保に留意し、それを妨げない高さの生垣や庭木、花木による緑化に努める。



緑の自然景観と連続する沿道の植栽



道路境界部、隣接する民地境界部に中・低木などを用いた植栽を行い、生き生きとした緑の景観が連続する通りの街並みを形成する。



店先や庭先など植栽可能な面積が限られる場合は、プランターや季節感を演出できる花木、地被類などを用いて緑化に努める。

■外構の植栽の整備 (B,C,D,I,J,Kゾーン等)

敷地の外構には、緑のある良好な周辺住環境や景観の形成に配慮した生垣や植栽の整備を行う。



壁面後退によってできた駐車場を修景するための植栽の整備 (Bゾーン等)



前面道路に面した外構の植栽の整備 (C,D,Jゾーン等)



住環境に配慮した敷地内の植栽の整備 (Iゾーン等)



河川沿いのうるおいのある景観形成に寄与する植栽の整備 (Kゾーン等)

推奨される植栽の樹種の例(全ゾーン共通)

■生垣



レッドロビン

- ・常緑樹で、赤褐色の葉は光沢があり、緑化の色にアクセントを与える
- ・枝が密に茂り、丈夫なため、生垣としてよく利用される



イヌツゲ

- ・常緑樹で、葉が小さく密集して生えるため、プライベートな区間をつくる
- ・刈り込みにより、様々な樹形を楽しむことができる



マサキ

- ・常緑樹で、光沢のある肉厚な葉が密集して生える
- ・11～2月頃、赤く熟した実がなる
- ・和風にも洋風にも合う



サザンカ

- ・常緑樹で、枝が密に茂る
- ・白・ピンク・濃紅など豊富な花色を持ち、10～12月頃に花が咲く
- ・多様な品種がある

■低木



サツキ

- ・常緑樹で、枝は下部から多数分岐し、その枝に葉が密集して生える
- ・5～6月頃にピンクの花が咲く
- ・和風にも洋風にも合う



ハクチョウゲ

- ・常緑樹で、細い枝が多数分岐して株立状になる
- ・5～6月頃に白い花が咲く
- ・生垣として使うこともできる



ドウダンツツジ

- ・落葉樹で、4～5月頃に花が咲き、秋に紅葉するため、四季を感じられる
- ・4～5月頃、壺形の白い花が咲く
- ・和風にも洋風にも合う



キリシマツツジ

- ・常緑樹で、枝に葉が密集して生える
- ・4～5月頃に花が咲き、秋に紅葉するため、四季を感じられる
- ・手入れがしやすく、視線が通る

■中高木



ハナミズキ

- ・落葉樹で、枝が水平に成長するため、緑陰がしやすい
- ・4～5月頃に花が咲き、秋に紅葉し、10～11月頃に赤い実がなるため、四季を感じられる



ナツツバキ

- ・落葉樹で、6月頃に花が咲き、秋に紅葉するため、四季を感じられる
- ・端正な樹形で、緑の街並みにアクセントを与える



ハナカイドウ

- ・落葉樹で、4～5月頃に枝を埋めるほどのピンクの花が咲くため、華やかな景色をつくる
- ・樹高が低く、目隠しや壁面を覆うことができる



サルスベリ

- ・落葉樹で、7～9月頃に次々に花が咲き、街並みに彩りを与えるだけでなく紅葉も楽しめる
- ・ボリュームのある葉が目隠しにも使える

■地被類



芝

- ・日本芝は、日本の気候風土に適した性質を持つ
- ・緑の空間がリラックス効果をもたらす
- ・和風にも洋風にも合う



タマリユウ

- ・常緑多年草で、維持管理が簡単なことから、庭のグラウンドカバーに多く使用される
- ・深緑の葉が落ち着いた印象を与える

5-8 駐車場・車庫①

敷地内の駐車場(5台以下の駐車場)

■歴史的な景観に配慮し修景された駐車場 (A,B,E,F,H,Lゾーン等)

・建物と一体化させた車庫に格子を用いて修景 (A,Bゾーン等)

Aゾーン等においては、歴史的な街並みに配慮し、建物の壁面を後退させて駐車場を設けることは避け、建物と一体化した車庫を基本とし、木製またはアルミ等の素材を用いた格子戸等で目隠しをし、修景する。



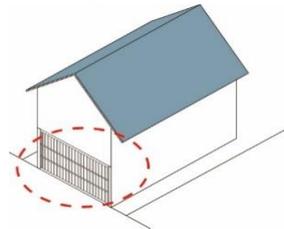
○木製またはアルミ製格子等による目隠しをした車庫



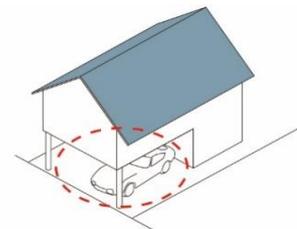
×目隠しのない車庫

・ピロティ部分の車庫に格子を用いて修景 (B,E,F,Lゾーン等)

やむを得ず1階部分をピロティにして車庫とする場合や、既存のピロティを修景する場合、通りからの見え方に配慮し、木製格子等で目隠しをするなどして修景する。



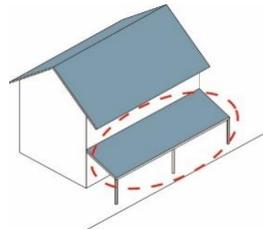
○ピロティ部分を格子等で修景した車庫



×1階部分をピロティにした車庫

・屋根をつけ建物と一体化させ修景 (B,E,F,Lゾーン等)

やむを得ず建物を後退させて駐車場を設ける場合、下屋を設置し建物と一体化した駐車場とするか、建築物と調和する屋根を設けるなどして、通りからの見え方に配慮する。

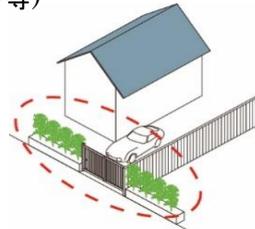


建物と一体化した屋根つき駐車場



・外構の門、生垣と共に整備し修景 (B,E,F,H,Lゾーン等)

生垣や自然素材の塀・柵等により前面道路側に設けられた駐車スペースを整備することで、前面道路側からの見え方に配慮し、歴史的な沿道の景観に調和させる。

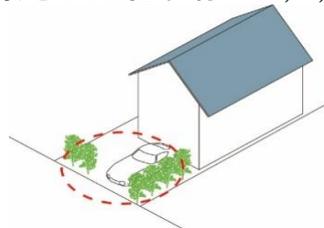


外構の門、生垣と共に整備した駐車場



■植栽等を用い周辺の街並みに配慮し修景された駐車場 (C,D,E,I,J,Kゾーン等)

道路沿いの景観や周辺の住環境に配慮し、前面の道路側の車路を除いた部分は低・中木の庭木、花木や地被類、プランターなどを用いた植栽と一体的に整備にするよう努める。



植栽と一体的に整備された駐車場

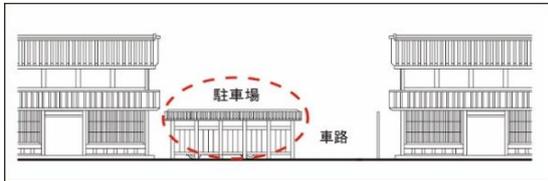


大規模駐車場(5台を超える駐車スペース)について

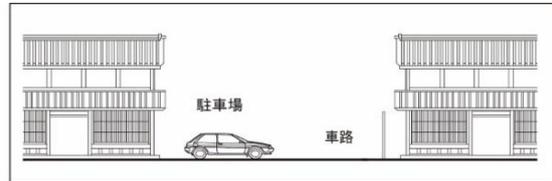
■歴史的な景観に配慮し修景された大規模駐車場 (A,B,E,F,H,Lゾーン等)

旧街道沿いの歴史的な沿道景観の残るゾーンにおいて、前面道路側に大規模駐車場を設置する場合は、出入口を限定し、安全上支障のない範囲で木塀や生垣等とともに整備する。

- ・木塀等を用い歴史的な沿道の街並みに配慮された措置 (A,B,Eゾーン等)

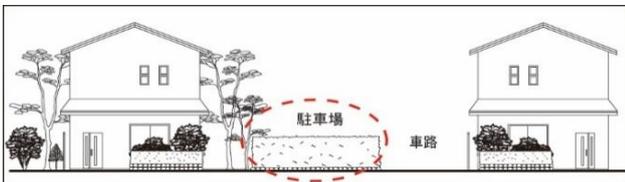


○街並みの連続性に配慮し木塀を用いた修景

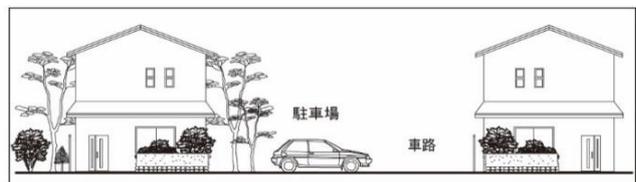


×街並みの連続性が途切れる駐車場

- ・生垣等を用い歴史的な沿道の街並みに配慮された修景 (E,F,H,Lゾーン等)



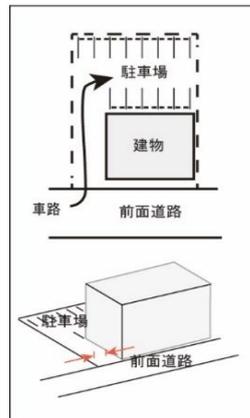
○生垣等を用い、街並みの連続性に配慮



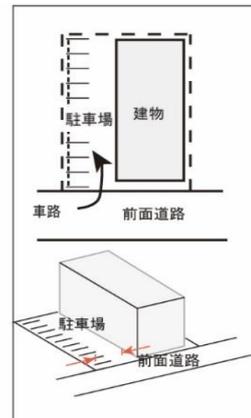
×街並みの連続性が途切れる駐車場

■大規模駐車場の配置方法 (C,D,E,Gゾーン等)

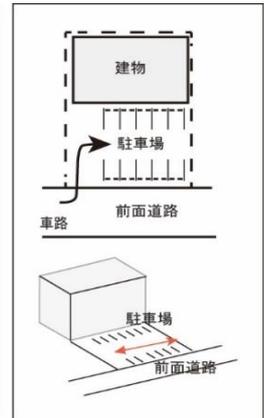
幹線道路沿いの敷地において、建物に付随させ大規模駐車場を設ける場合は、建物との配置の関係を工夫することで前面道路側がすべて駐車場となることを避ける。



○建物の背後に配置



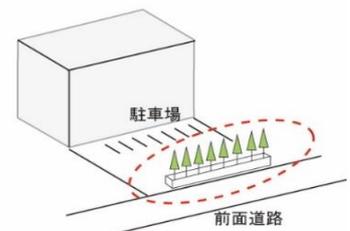
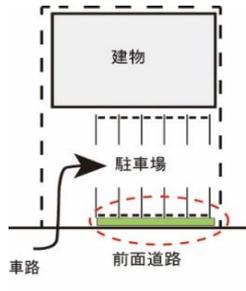
△建物の側面に配置



×道路側の前面に配置

■植栽と共に整備された大規模駐車場 (C,D,G,I,J,Kゾーン等)

幹線道路や街道沿いの敷地において、大規模な駐車場を設置する場合は、周辺の街並みに配慮し、植栽等と一体的な整備を行うこととする。



植栽等による修景

5-8 駐車場・車庫②

■駐車スペースに設けるシャッターについて

住宅や店舗等の車庫にシャッターを設ける場合は、閉鎖的で圧迫感のあるものを避ける。特に、歴史的な沿道景観にあたるゾーンでは、周辺の景観に配慮し、木製の仕上げに準ずるものや色彩に配慮されたものの使用に努める。



○木製の引き戸



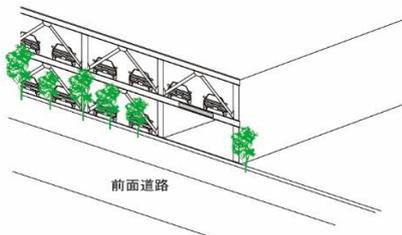
△木に近い色シャッター



×閉鎖的なシャッター

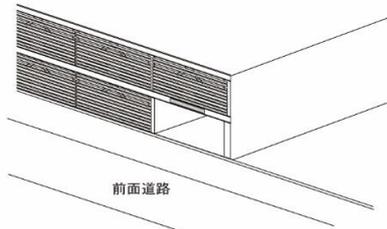
■大規模な立体駐車場の設置について（Gゾーン等）

大規模な立体駐車場を設ける場合は、植栽やルーバー等を用い、全面道路側からの見え方に十分配慮した修景を行うこととする。



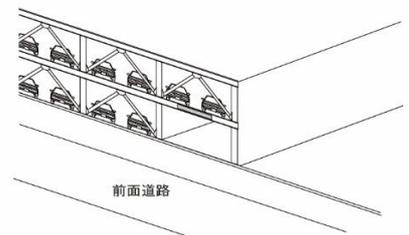
前面道路

○車や構造体を敷地外周部の樹木等で覆い周辺からの景観に配慮



前面道路

○車や構造体をルーバー等で覆い周辺からの景観に配慮



前面道路

×構造体や車が周囲に露出している

《アプローチの演出で景観形成に効果を発揮》

前面の道路から建物の玄関まで続く通路を、アプローチといいます。建物の風合いに合わせて趣ある景観をつくるには、アプローチの演出が重要です。

道路等の公共空間と一体性を考えた整備により連続感が生まれ、表情豊かな景観をつくることができます。

タイルや石張り、木製材料、化粧砂利等を配し、彩りを加えるのもひとつです。

どのような敷地条件であっても、少しの工夫で玄関までの道のりを楽しいものとすることができ、加えて周辺景観にも大きな効果を発揮します。

(Aゾーンなど、歴史的街並みの連続性に配慮し、建物の壁面を伝統的な町屋の壁面に揃える場合は除きます。)



5-9 塀・柵

■使用を避けるべき塀（全ゾーン共通）

歩行者に圧迫感を与えるような塀や、単調、閉鎖的な塀及び素材は避ける。



閉鎖的なブロック塀



圧迫感のあるコンクリート塀

■住環境に配慮した塀・柵の設置（B,C,D,E,I,J,Kゾーン等）

B,Cゾーンなどでは、歩行者に配慮し、植栽や木塀、緑とともに整備した柵等を用いる。

Eゾーンなどでは、沿道の生活景が作り出す街並みとの連続性や調和に配慮し、視線の通りやすい生垣、植栽等を用いる。

D,I,J,Kゾーンなどでは、周辺の住環境に配慮し、圧迫感を与えないような背の低い塀・見通しのきく柵を用いる。



生垣



背が低い木塀



緑とともに整備した塀



見通しのきく柵

■歴史景観を形成する塀の設置（F,H,Lゾーン等）

F,H,Lゾーンなどでは、歴史的な景観に配慮し塀を設ける場合は木塀や生垣、石塀等の自然素材を用いる。



木塀



生垣



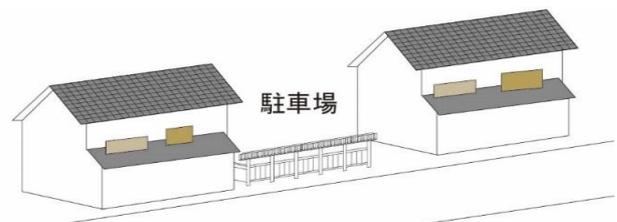
石塀

■街道沿いの修景に用いる塀・柵の設置（Aゾーン等）

Aゾーンなどでは、基本的に塀は設けないが、歴史的な街並みの連続性を保つために既存の駐車場の修景を行う場合は木塀等を用いる。



木塀



木塀を設置し、連続性に配慮

5-10 その他設置物

■自動販売機（全ゾーン共通）

自動販売機を設置する際は、道路側や歴史的建物の周辺等の公共的空間からの見え方に十分配慮した設置の方法をとることとする。



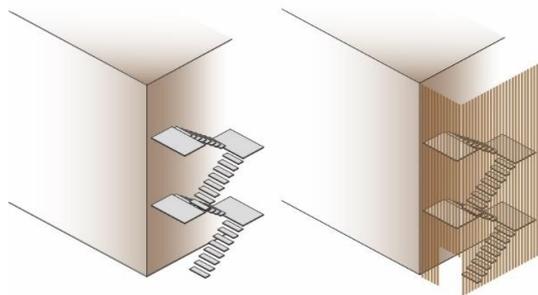
木材を用いて囲んだ例



周辺と調和する色彩に変更した例

■屋外階段（全ゾーン共通）

屋外階段の設置の際には、道路側や歴史的建物の周辺等の公共的空間からの見え方に十分配慮し、見えにくい部分に設置するかルーバ等を用いて建物と一体化を図る。または周辺と調和した色彩とするよう努める。



ルーバーを用いて建物と一体化した屋外階段

■ベンチなどのファニチャーや庭園灯・屋外照明等（Eゾーン）

ベンチなどのガーデン・ファニチャーを道路境界に面した敷地内に設置し、歩道からも暮らしの景観を感じられるようにするとともに、庭園灯や屋外照明などは、簡易な腰掛けにも利用できる設えとして、住民同士や歩行者と住民との多様なコミュニケーションや交流のための場づくりに努める。



ベンチの例



ベンチの例